

# 長崎北病院 伝言板 1月号

令和6年元旦発行

新しき年始まる。今年もよろしくお願ひいたします。

大地震から始まった2024年。能登の人々の穏やかな新年、和やかな元旦を襲いました。テレビの映像で悲惨さに見えるが実感はない。長崎では平穏な正月を迎えられている。またすぐ日常が始まり、仕事も始まる。夜が明ければ、見慣れた風景が広がっている。普通の生活ができる有りがたさ。普通に感謝です。



## 普通は素晴らしい

天災に人知は及ばない。減災はできるだろうが防げない。最近、長崎の地に大きな災害がない事は僥倖である。感謝。箱根駅伝、青山学院監督 原晋は言う。「駅伝は体ひとつの競技。部員に規則正しい生活をさせる。朝5時起床、門限22時、消灯22時15分」。医療者も同じ。身体が資本。まずは仕事場に元気に立って、きちんと対応できるか。頭が回るか。想像力を働かせられるか。健康で体調が良くなければ仕事の質は落ちる。学生ではない、自己管理。天災と違って自分で何とかできる部分。「普通」は素晴らしい。

しかし、普通に仕事ができる、力を出すことは意外と難しい。肉体的、精神的な不調、現状への迷い、不満。

昨年 ノートルダム清心学園理事長渡辺和子さんの言葉「置かれた場所で咲きなさい」を紹介しました。これはそこで我慢しなさいという意味ではありません。置かれた土地が不本意。固い土なら耕す。水が無ければ水を引く。肥料が足りなければ持ってくれば良い。方法はいくらでもある。置かれた場所でひっそりと咲く必要はない。

何であんなところに大輪の花が？いつの間に、あの花は何？と言われるのが醍醐味。咲き誇れ。「置かれた場所で咲き誇りなさい」です。そのためには「羨まない、愚痴らない」。隣の芝生は青く見える。他人と比べる、羨む。自分の居場所は見すばらしく見える。そんなことはありません。周囲を見回し、目を凝らせば良いところが必ず見つかる。どんな荒地でも手を入れ続ければ青い芝生になります。綺麗な芝生も、手入れを怠れば枯れる。元々の青い芝生で昼寝をするのも一興。しかし石だらけ、草だらけの大地を知恵と努力で緑一面、花盛りの土地に変えるのが面白い。坂は上を見て登っている時の方が、きついけど楽しい。それが普通になる。



新たなことを始める。もちろん全く新しく試行錯誤の連続もよし。しかし、時間がかかる。まずは「温故知新」。故きを温ねて新しきを知る（ふるきをたずねてあたらしきをしる）。論語の中の言葉です。過去の事実や教えを研究し、そこから新しいことを見つけ出すことです。しかし最近「温故創新」という言葉にも遭遇します。「故きをたずねてあたらしきを創る」。新しいことを知るだけでなく一歩進んで作り出していく。英語では「innovation：イノベーション：革新」でしょうか。革新は偶然には生まれません。過去や歴史という土台の先に新しいことが生まれてきます。まずは振り返り、自分の土台、実力を知ることから始まります。



さて今年の温故創新。コンセプトは「あるものを使い倒す。無いものは創る」。まずは今あるもの、知識、能力を目一杯使う。そうすると何が足りないかが見えてくる。足りなければ工夫する、やりくりする。借りてくる、持ってくる。それだけでできる革新：innovationもある。しかし、どうしても無いもの、それがあればもっとできる事がある。無いからと嘆かない、諦めない。新しく創れば良い。しっかり耕した良い土地にタネを撒けばすぐ花が咲く。「置かれた場所で咲き誇りなさい」。普通にやり続ければ大輪が咲くはず。(A.S.)